



天然スギ材を活かした座卓

天然スギ林をドローンで空撮
(大王スギの樹冠はどれでしょう?)佐渡の文化(文弥人形など)体験を
取り入れた共同利用実習も実施中です日本への留学生、海外の大学生を
対象とした共同利用実習を始めました

新潟大学演習林ニュースレター

Niigata University Forest Newsletter

新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター 佐渡ステーション

第4号 2016年1月

佐渡演習林60周年記念式典開催の報告

2015年10月3日、あいぽーと佐渡(佐渡市両津)にて、佐渡演習林60周年記念式典を開催いたしました。記念式典には、約70名の新潟大学の関係者はじめ、発足から今日まで佐渡演習林の発展に尽力して頂いた皆さまの参加を賜り、盛大に執り行う事ができました。

高橋姿学長はじめ、来賓の方達から多くの祝辞を頂き、併せて開催したシンポジウムでは、演習林の歴史や自然環境、現在の取組などについての講演を行いました。祝賀会では、地元の海の幸や地酒を片手に、演習林での思い出や将来についての議論で大いに盛り上がりました。翌日の演習林現地視察では、元教職員らも参加し、スギ天然林や牛の放牧によって形成された半自然草地などを熱心に観察する参加者の姿が見られました。

皆様のお力添えのもと、一連の記念行事を無事に終えた事、この場をお借りしてお礼申し上げます。60周年を機に、初心に還り一層躍進していきたいと思っております。今後も変わらず一層のご指導とお力添えをお願いいたします。



参加者全員での記念撮影

崎尾教授、植生学会賞を受賞

2015年10月11日に高知大学で開催された植生学会第20回大会で、崎尾教授の植生学会賞授与式と記念講演が行われました。植生学会賞は植生学に関して優れた業績によってとくに貴重な学術的貢献をなしたと認められる者に授与される賞です。今回の崎尾教授の受賞は、水辺林の生態解明と再生・復元に対する取組みが評価されました。これまでの既往研究は、水辺林の植生パターンを静的に捉えていたのに対して、水辺林の更新を樹木の生活史と河川攪乱の関係から動的に解明し、その後の水辺林研究に大きな学術的インパクトを与えました。また、水辺林の修復・再生の手法を実践的に検討するとともに、多くの優秀な水辺林研究者の育成に貢献したことも評価されました。

受賞式での
崎尾教授

谷口技術専門職員、森林管理技術賞・特別功労賞を受賞

2015年9月17日に信州大学で開催された平成27年度全国大学演習林協議会秋季総会で谷口憲男技術専門職員が第17回森林管理技術賞・特別功労賞を受賞しました。本会は、森林科学を中心とする教育研究の発展のため、演習林等に関する調査及び研究を行い、各大学相互間の連絡を図るとともに演習林等の整備並びに改善のために活動している協議会です。受賞対象のテーマは、「演習林における林道・森林基盤整備および森林施業に関する教育支援」で、演習林の職員として30年間にわたり、演習林内の約15kmに及ぶ林道の管理とともにスギ人工林の管理を行ってきたことが評価されました。

受賞者記念撮影
(中央:富樫一巳会長 中央右:谷口技術専門職員)

シリーズ

研究紹介②

ヤブツバキとユキツバキは本当に別種？

ツバキは日本人に古くから親しまれている日本を代表する花木です。佐渡島でもこのツバキの種子から油を抽出し販売しています。そんなツバキですが、野生にはヤブツバキ (*Camellia japonica*) とユキツバキ (*Camellia rusticana*) という 2 種類が生育しています。しかし、この 2 種類が本当に違う種類であるのかは研究者によって意見が分かれるところです。そこで、私の研究はこの 2 種類を形態 (花と葉) と生態 (花粉を運ぶ生物) と DNA (葉緑体) の相違から評価しました。

ユキツバキ (*Camellia rusticana*)

ヤブツバキ

ユキツバキ

2 種類の形態の特徴を表した図

その結果、形態と生態、DNA と全てで違いが見られました。花では花びらの色、形、大きさ、おしべの長さ、色など様々な面で違いが見られました。生態の調査では、ヤブツバキは鳥がユキツバキは虫が花粉を運んでいることがわかりました。DNA では BAPS という解析によって 2 グループに分けたところ、ヤブツバキとユキツバキに大きく分かれました。

形態、生態、DNA と全てで違いが見られたので、ヤブツバキとユキツバキは別の種類である可能性が高いということがわかりました。これからは、さらにこれらの研究を精査して、今後はヤブツバキとユキツバキがどのような歴史を経て 2 つの種類に分かれていったのかを研究していきたいと考えています。

(佐渡研究室 修士 2 年 三浦弘毅)

佐渡の動植物③

ツルアジサイ (*Hydrangea petiolaris*)

佐渡の固有種でもなければ希少種でもないが、春の花がひとしきり終わったあとのスギ天然林で「これでもか」とばかり膨大な量の花を着けるも決して下品にならない、印象的な植物である。コアハビタットがスギとよく似ているので、両者は夫唱婦随。6月の霧のなかで天然スギに密着するツルアジサイの真っ白な装飾花は実に絵になる。

ツルアジサイ (*Hydrangea petiolaris*)

佐渡演習林では「仁王杉」(推定樹齢約500年)に付着するものが、知られている中で最大の個体で幹直径は20cm以上に達する。ツル植物は最小コストで高いところに登攀するために自立型の近縁種から進化したといわれ、本来はスリムであるところが存在価値。ツルアジサイの場合は幹直径は一年当たり1mmも成長すれば多い方である。すなわち、直径20cm超のツルアジサイは、仁王杉の半生を少なくとも200年余連れ添った伴侶ということになる。

佐渡研の卒業生には、ツルアジサイの妖艶な魅力に惹かれて研究を始め、周囲から「仙人」と呼ばれながら博士号をとった学生も居る(現某県職員のK君)。妻君もコアハビタットが同じなのだろうか、夫唱婦随である。

(准教授 本間航介)

お知らせ 第2回 新潟大学佐渡3施設による森里海公開シンポジウム

- 日時: 2016年2月20日(土) 15時~17時 ※参加費無料、事前申込み不要
 場所: 佐渡市トキ交流会館 大ホール ※10時半より、3施設に所属する学生の研究発表会を行います
 (佐渡市新穂潟上1101-1) シンポジウムと合わせてお気軽に起こし下さい
 内容: 新潟大学佐渡3施設の紹介
 農学部附属演習林の概要(崎尾均 教授)
 朱鷺・自然再生学研究センターの概要(永田尚志 教授)
 理学部附属臨海実験所の概要(安東宏徳 教授)
 研究発表
 1. 佐渡島では何故花が白くなるのか? ホタルブクロに見る島の生物の特殊化(演習林:阿部晴恵)
 2. 魚類群集はどのように形作られるか?(朱鷺・自然再生学研究センター:満尾世志人)
 3. 海と川を行き来する通し回遊魚の生態:ハゼ類を例として(臨海実験所:飯田碧)

共同利用実習募集中!

佐渡ステーションでは、共同利用実習、演習林での調査・研究の受け入れを随時行っています。お気軽にご相談ください。

実習の様子などをブログで紹介しています

佐渡研究室

検索

編集後記:

実習シーズンが無事に終わり、佐渡にもようやく本格的な冬がやってきました。この冬は、佐渡ステーションのホームページのリニューアルを行う予定です。是非、こちらもチェックして下さい。(特任助手 菅尚子)

新潟大学演習林ニュースレター

編集・発行:新潟大学農学部フィールド科学教育研究センター 佐渡ステーション

〒952-2206 新潟県佐渡市小田94-2

tel: 0259-78-2613 fax: 0259-78-2929 e-mail: sadoken2011@gmail.com

ホームページ http://www.agr.niigata-u.ac.jp/fc/sado_html/sado_index.html

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。